

言語活動の充実に関する実践事例

学校名（東広島市立高屋東小学校）

- ① 教科 算数科 ② 学年 第1学年
- ③ 単元名 ふえたり へったり
- ④ 本時の目標 生活の中から加法と減法の場面を選び出し、3口の計算クイズ（式→図・言葉）をつくらることができる。
- ⑤ 学習の流れ（5時間目／全5時間）

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 (評価方法)
1 課題を把握する。 2 めあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">さんすうクイズをつくって、クイズ大会をしよう。</div>	・単元末の総合的な課題（パフォーマンス課題）を提示する。	<p>【パフォーマンス課題】 あなたは、さんすうはかせです。さんすうのクイズをつくって、ともだちにクイズをだしましょう。「たしざん」と「ひきざん」がはいたつづいたけいさんのクイズです。クイズには、①しき ②え ③ことばをかきます。クイズができたら、ともだちにクイズをだしましょう。また、こうたいして、ともだちのクイズにこたえましょう。</p> <p>・式に合わせて、生活の中から加法と減法の場面を選び出し、式と図、言葉を対応させてクイズをつくっている。 〔数学的な考え方〕(クイズブック)</p> <p>・友だちのクイズから式を立て、答えることができる。 〔数量や図形についての技能〕(回答用紙)</p>
3 クイズをつくる際の観点を確認する。	・式に対応したクイズをつくることを確認して活動に入らせる。	
4 クイズをつくる。 ① 式をかく ② 図をかく ③ 言葉を書く 【言語活動 「クイズづくり」】	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中から加法及び減法の場面を選び出せない児童には、対話をして場面をイメージさせる。 ・手順で困ったときは、活動の途中でも掲示物で確認するように指示しておく。 	
5 ペアでクイズを出し合う。 【言語活動「説明する」】	<ul style="list-style-type: none"> ・クイズに答えるために、聞き取ったことを式にする回答用紙を持たせる。 ・クイズ（自分の考え）を筋道立てて話せるように、つくったクイズブックの記述を相手に示しながら説明させる。 	
6 全体でクイズの交流をする。	・加法から減法、減法から加法のクイズを発表させ、クイズから友達の思考過程について考えさせる。	
7 作ったクイズを見直す。	・全体交流によって気付いたことをもとに、式と図、言葉が対応しているかどうか見直しをさせ、加筆、修正をさせる。	
8 振り返りをする。	・観点（式・図・言葉）に基づいて自己評価させ、次の学習に生かせるようにさせる。	

〔言語活動の充実〕

設定した言語活動を通して育てたい力

- 式から言葉、言葉から式の学習を行い、自分の考えを分かりやすく説明することを通して、式についての考えを深めることができる。

言語活動の充実のための指導の工夫

- クイズに必要な要素（問いと答え）について理解させる。
- ペアによる話合いの仕方を段階的に指導する。
- 自分の考えを筋道立てて話せるように、クイズブックの記述を相手に示しながら、順序よく説明させる。

